

# 池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1997年度

1998年3月

池田市教育委員会

## 序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かつての面影がしぶることができないほど様がわりてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、國ならびに、大阪府の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告です。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成10年3月

池田市教育委員会  
教育長 長江 雄之介

## 例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成9年度国庫補助事業（総額900,000円、国庫50%、府費25%、として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第36次	池田市上池田1-1574-18	平成9年4月17日～4月25日
池田城跡第37次	池田市建石町1978-10	平成9年6月3日～6月13日
池田城跡第38次	池田市城山町3603-2	平成10年1月12日～1月20日
3. 調査は、池田市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係が実施し、中西正和が現地を担当した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図にあたっては野村大作・辻美穂の協力を得た。
5. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第です。

## 目 次

I	歴史的環境	1
II	池田城跡発掘調査	5
1.	はじめに	5
2.	池田城跡第36次発掘調査	6
3.	池田城跡第37次発掘調査	7
4.	池田城跡第38次発掘調査	8

## 図 版

### 図版 1 池田城跡第36次発掘調査

- (1) 第1トレンチ全景（南東から）
- (2) 第2トレンチ全景（南西から）

### 図版 2 池田城跡第37次発掘調査

- (1) トレンチ全景（北から）
- (2) トレンチ全景（南東から）

### 図版 3 池田城跡第38次発掘調査

- (1) トレンチ全景（南から）
- (2) トレンチ全景（南東から）

## 挿 図 目 次

### 歴史的環境

第1図 畑出土有舌尖頭器..... 1

第2図 遺跡分布図..... 2

第3図 妹三堂古墳竪穴式石室..... 3

第4図 池田城跡主郭部..... 4

### 池田城跡発掘調査

第5図 調査地位置図..... 5

#### 池田城跡第36次発掘調査

第6図 トレンチ位置図..... 6

第7図 第1トレンチ平・断面図..... 7

#### 池田城跡第37次発掘調査

第8図 トレンチ位置図..... 7

第9図 トレンチ断面図..... 8

#### 池田城跡第38次発掘調査

第10図 トレンチ位置図..... 8

第11図 トレンチ平・断面図..... 9

第12図 池田城跡縄張り図..... 9

## I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西3.82km、南北10.28kmの南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五月山塊が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50~100mの緩やかな五月丘丘陵が広がり、さらに南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

### 旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関するものは希薄である。遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡・宮の前遺跡（螢池北遺跡）・宮の前西遺跡が挙げられるが、遺構に関しては未確認である。

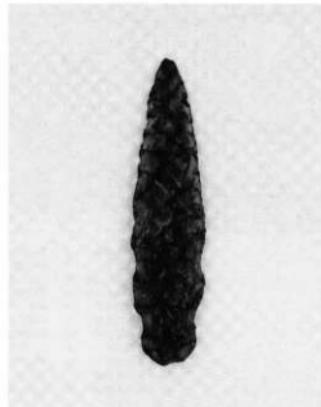
伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山塊西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和期から旧石器が収集され、また、螢池北遺跡では、昭和61年度の大阪府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。

### 縄文時代

五月丘丘陵に位置している遺跡では、上述した伊居太神社参道遺跡で、縄文時代のサヌカイト製の石鎌、京中遺跡ではサヌカイト製の石鎌・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査においては、池田城跡下層からサヌカイト製の石鎌、晩期の生駒西麓産突帯文土器が出土している。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鎌・石匕、宮の前遺跡では石棒が採取されている。また、豊島南遺跡で後期から晩期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格は明らかではない。

### 弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡が挙げられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は



第1図 畠出土有舌尖頭器



- |            |              |               |                |
|------------|--------------|---------------|----------------|
| 1. 萩ヶ森遺跡   | 2. 古江市清      | 3. 古江北古墳      | 4. 青山遺跡        |
| 5. 吉江遺跡    | 6. 木原遺跡      | 7. 木部1号墳      | 8. 木部2号墳       |
| 9. 木苦林山古墳  | 10. 爰宕神社遺跡   | 11. 伊研太神社參道遺跡 | 12. 稲二室古墳      |
| 13. 梶三室山古墳 | 14. 池田城跡     | 15. 沖田茶臼山古墳   | 16. 六月ヶ丘古墳     |
| 17. 芦原北遺跡  | 18. 高海1号墳    | 19. 高海2号墳     | 20. 石板庵寺       |
| 21. 新宿西遺跡  | 22. 相原古墳墓出土地 | 23. 明中通跡      | 24. 夏浦北遺跡      |
| 25. 野田波古墳  | 26. 林原古墳     | 27. 林原南古跡     | 28. 霍室古墳       |
| 29. 石塙古塚   | 30. 二子町古墳    | 31. 神城寺遺跡     | 32. 下保佐名麻鹿神社古墳 |
| 33. 平保遺跡   | 34. 神田北遺跡    | 35. 駿輝古墳      | 36. 門原遺跡       |
| 37. 神田南遺跡  | 38. 天神遺跡     | 39. 豊島南遺跡     | 40. 住吉宮の柏遺跡    |
| 41. 宮の前遺跡  | 42. 侍菖蒲遺跡    | 43. 駿輝        |                |

第2図 遺跡分布図

不明である。しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43・44年に中国自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の遺構が多数検出されている。

また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘丘陵上に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡において、竪穴式住居跡、土坑が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五月丘丘陵に散らばり、小規模化する。

#### 古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳が挙げられる。この2つの古墳の主体部は共に竪穴式石室である。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帶神獸鏡が出土した。また、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土櫛が存在することが確認されている。古墳時代中期に至ると高塚式の古墳はなくなり、かわって、小規模な低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後圓墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

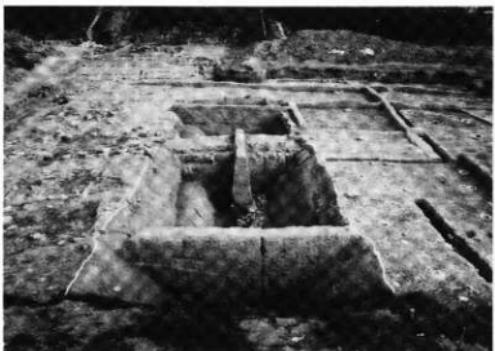
古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では布留式の土器を伴う焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しはあるが、検出遺構も増していく。宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡、溝跡が検出されている。

#### 歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、豊島南遺



第3図 娘三堂古墳竪穴式石室



第4図 池田城跡主郭部

跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、後白河院領として開発が推進された貞庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、

経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）、織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上に位置し、現在でも主郭に土塁や空堀が良好に残る。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。

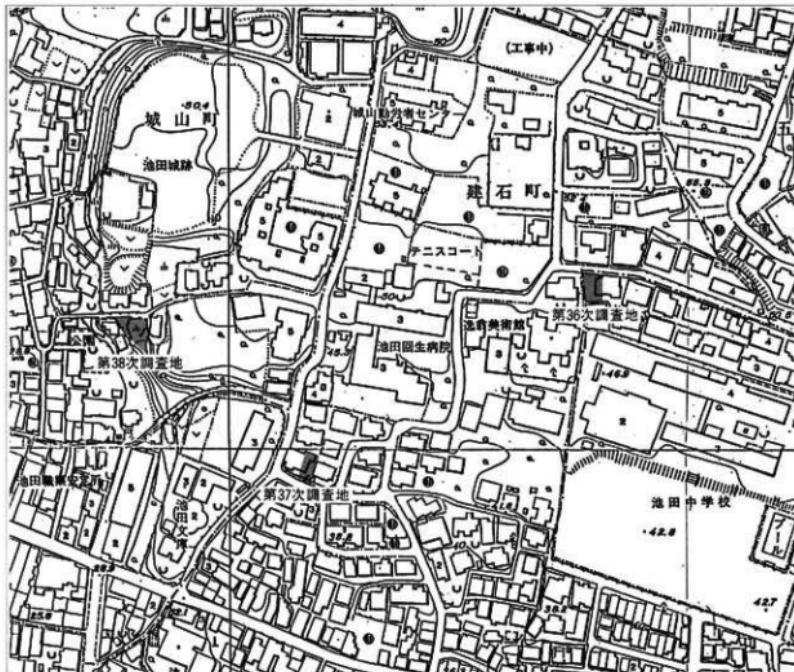
#### 参考文献

- 坂口重雄「地形と地質」『池田市史』各説編 1960年  
富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』概説篇 1971年  
橋高和明『原始・古代の池田』池田市立池田中学校地歴部 1985年

## II 池田城跡発掘調査

### 1. はじめに

池田城は、池田市の城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山塊から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選地されていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになつた。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。



第5図 調査位置図

池田城跡の主郭部は、現在でも土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43・44年に主郭部の一部が発掘調査され、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水様の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設した虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる埠列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しづつであるが城の全容が解明されつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晚期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、また、平成3年の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベット状構造を伴う竪穴式住居跡が検出されている。

## 2. 池田城跡第36次発掘調査

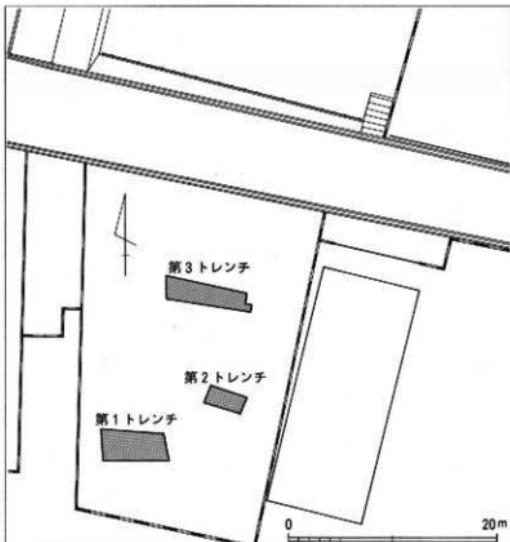
### 調査の概要

発掘調査は池田市上池田1-1574-18において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の東端に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地の中央部にある。調査面積は13m<sup>2</sup>である。

池田城跡は近年の発掘調査、レーダー探査などにより、城の外郭などが判明しつつあり、本調査地西側に堀が南北に走っていることが考えられている。そのことを念頭におき、調査を実施した。

調査は第1トレントから第3トレントまで、順に調査したが、第2トレントは以前の建物の基礎、及び、埋設管などの破壊で、調査はできなかった。また、第2トレントは近代の井戸を検出した。

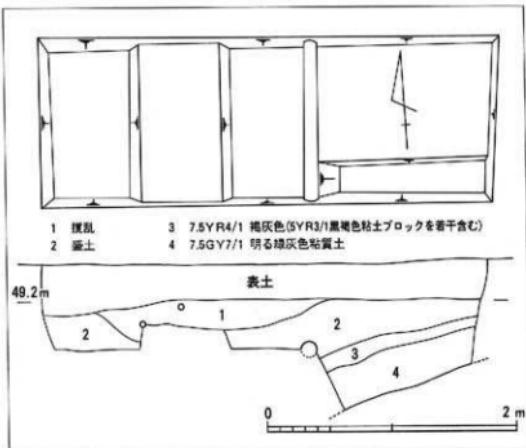
第1トレントの基本層序は第1層は表土、及び、盛土、第2層は褐色の粘質土、第3層は黒灰色の粘質土、第4層にはぶい褐色粘質土の地山である。



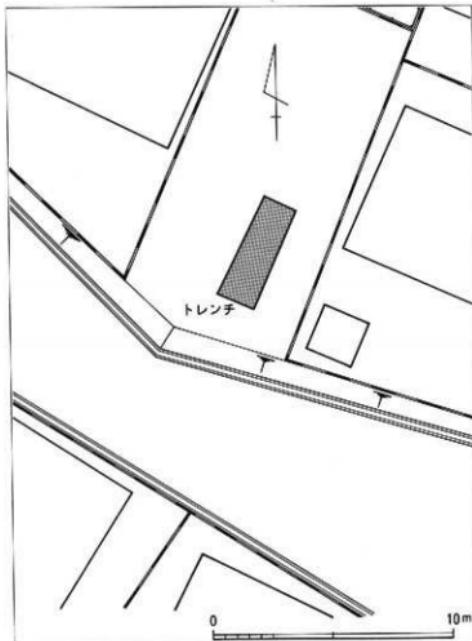
第6図 トレント位置図

第4層の地山は、西へ向かって傾斜しており、堀に関する落ち込みと考えられる。第1トレンチは、西側で水道管・土管等がみつかったため、掘削できなかった部分が多くった。また、調査地の関係で堀の幅、深さ等の詳しいことは不明である。

出土遺物は須恵器、土師皿、近世の瓦等であるが、少片のため図化できるものはなかつた。



第7図 第1トレンチ平・断面図



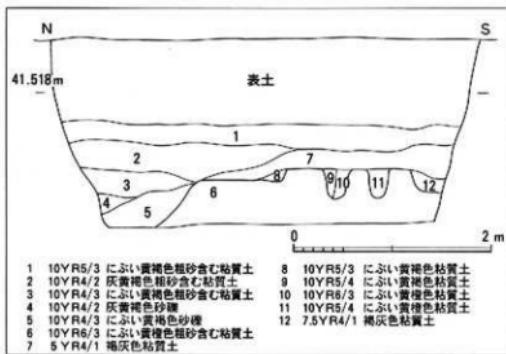
第8図 トレンチ位置図

### 3. 池田城跡第37次発掘調査

#### 調査の概要

発掘調査は池田市建石町1978-10において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の中央に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地の中央部にあたる。

調査地の西側約20mの場所で大阪府教育委員会が発掘調査を実施し、その結果、堀・大手門の存在が確認され、東へ伸びる堀が確認されている。また、本調査地から東へ10mに位置する平成3年の第30次調査において堀と考えられる落ち込みが確認されている。そのことから、調査地南側には堀が存在することが考えられる。それらのことを念頭におき調査を実施した。調査面積は6m<sup>2</sup>である。



第9図 トレンチ断面図

からは落ち込みを確認した。深さ、幅等の詳しいことは調査地の関係で不明であるが、周辺の調査の結果から堀に関する落ち込みと考えられ、堀の幅は、およそ7m程度と考えられる。

出土遺物は土師皿等がみつかったが、小片のため図化はできなかった。

基本層序は第1層は表土、及び、盛土、第2層は褐色の粘質土、第3層は黒灰色の粘質土、第4層はにぶい褐色粘質土の地山である。

調査の結果、地山上からは柱穴が2基確認された。柱穴は大きさが20cm前後で、出土遺物がないため詳しい年代は不明だが、周辺の調査で地山面から弥生時代・古墳時代の遺構がみつかっており、そのころまで時代が溯る可能性もある。また、南側か

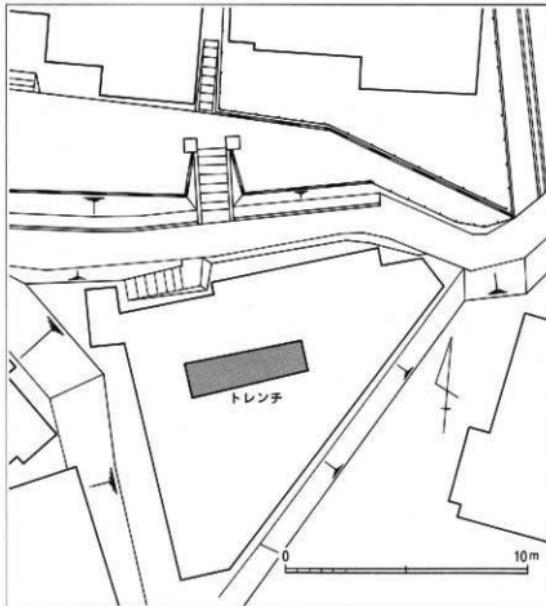
#### 4. 池田城跡第38次発掘調査

##### 調査の概要

発掘調査は池田市城山町3603-2において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。

本調査地は主郭部から南へ約50mの場所に位置し、池田市街が位置する標高約30mの平地と池田城が立地する標高約50mを測る台地との中間の急な傾斜地に帶曲輪のように位置している。本調査地より東へ30m位置する台地上で発掘調査が行われ、建物に伴う礎石、焼土層等が確認されている。

調査地の基本層序は第1層は表土、及び、盛土、第2層は褐色の粘質土、第3層は黒灰色の粘質土である。

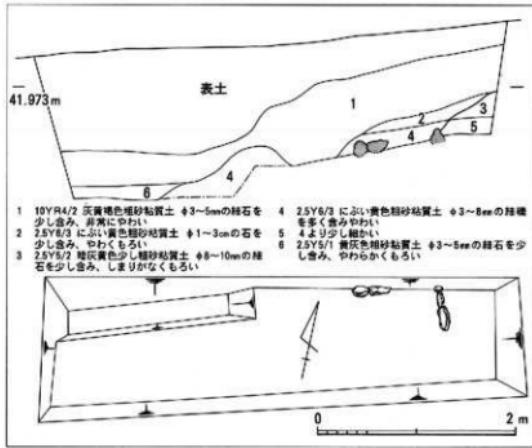


第10図 トレンチ位置図

今回の調査では、調査範囲、及び、基礎の関係で地山面までの確認はできなかった。

検出遺構は第3層から南北に走る斜面に並行な石列を検出したが、年代等は不明である。

池田城の発掘調査において、堀の配置等はおおよそ判明しつつあるが、建物等の配置は不明な点が多い。遺物については、主郭・Ⅱ郭からは多量に出土するが、それ以外の場所では、出土量は、極めて少なく、生活の痕跡は見受けられない。



第11図 トレンチ平・断面図



第12図 池田城跡縄張り図

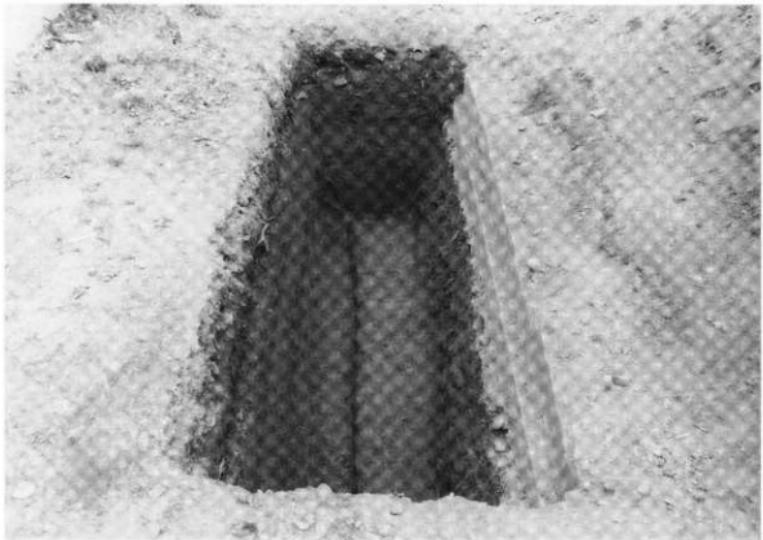




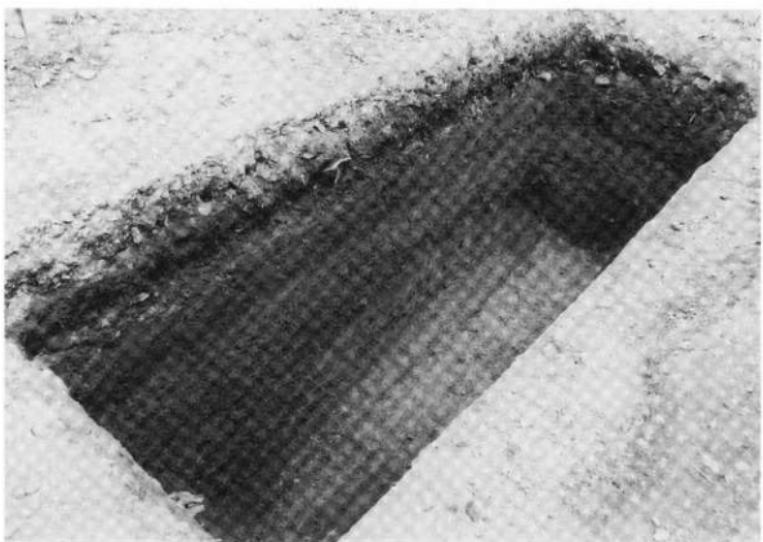
(1) 第1トレンチ全景（南東から）



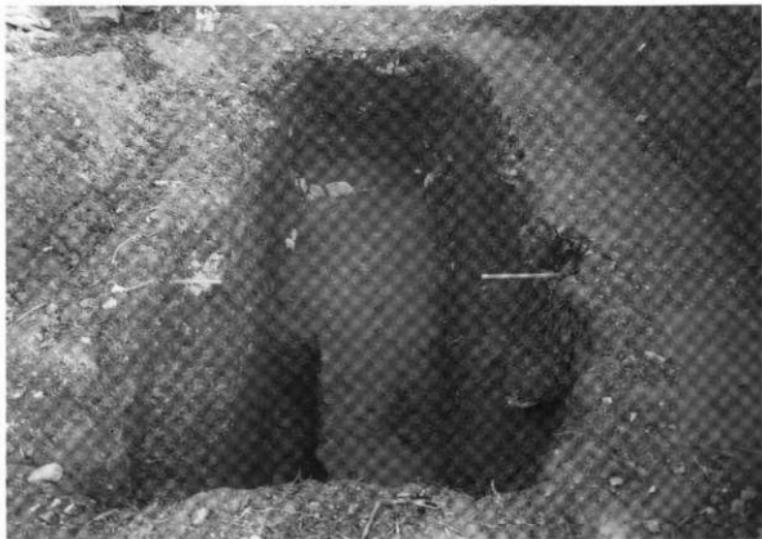
(2) 第2トレンチ全景（南西から）



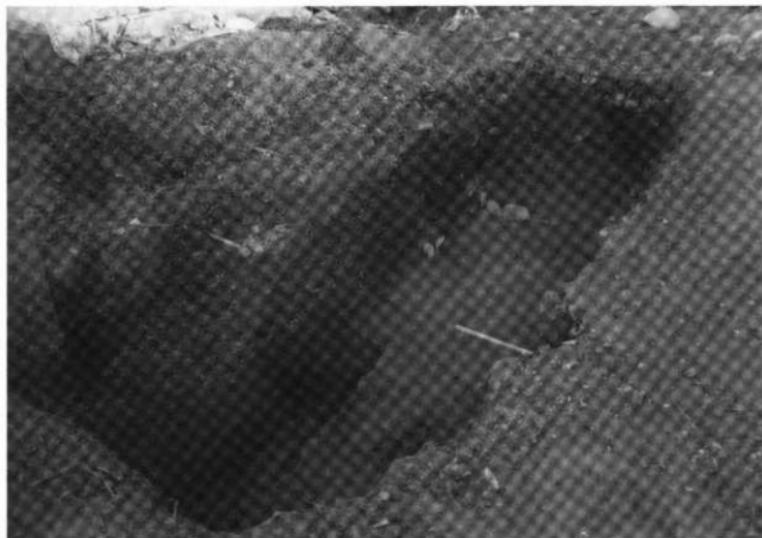
(1) トレンチ全景（北から）



(2) トレンチ全景（南東から）



(1) トレンチ全景（南から）



(2) トレンチ断面（南東から）

## 報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第24集
卷次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	24
編著者名	中西正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 ☎ 0727-52-1111

発行年月日 1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いけだじょうせき 池田城跡 第36次	うえいけだ 上池田1-1574-18	27204	-	34度 49分 21秒	135度 25分 50秒	970417 ~ 970425	13m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
いけだじょうせき 池田城跡 第37次	たていじょうせき 建石町1978-10	"	-	34度 49分 18秒	135度 25分 45秒	970603 ~ 970613	6 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
いけだじょうせき 池田城跡 第38次	じょうじょうせき 城山町3603-2	"	-	34度 49分 20秒	135度 25分 43秒	980112 ~ 980120	8 m <sup>2</sup>	個人住宅新築のための事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
池田城跡 第36次	城館跡 集落跡	中世	整地層	土師皿等				
池田城跡 第37次	城館跡 集落跡	中世	整地層	土師皿等				
池田城跡 第38次	城館跡 集落跡	中世	整地層	土師皿等				

池田市文化財調査報告第24集  
池田市埋蔵文化財発掘調査概報  
1997年度  
1998年3月  
発行 池田市教育委員会  
池田市城南1丁目1番1号  
編集 社会教育課 文化財係  
印刷 西村印刷株式会社